

# 渋谷を舞台に多様性を学ぶ！ 多様性輝く SHIBUYA を創る！

～これからのグローバル教育講座～

全体統括：松下 慶太氏  
実践女子大学 人間社会学部 人間社会学科 准教授



レポート  
第1回

2014.  
7.5  
[sat]



研修コーディネーター：  
辰野まどか氏

一般社団法人 グローバル教育推進  
プロジェクト (GIFT) 事務局長

## 多様性輝く国際文化都市・渋谷 SHIBUYA とは？ (入門編)

グローバル化が進む社会の中で、私たちは何をみつめ、どう生きていくべきか。

全3回のこの講座では、本学の新キャンパスがある渋谷を拠点に活動を展開する方々と触れ合い街を歩いて、「これからの渋谷」を考えます。東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年に向けて、多様性ある国際文化都市・渋谷の実現のために何ができるか。学生が、多くの人との出会いに刺激を受けながら考え、渋谷の真のグローバル化に参画する第一歩を後押しします。

第1回目の今回は、学生から社会人まで約150名が参加。渋谷区をより魅力的な街にするために活動する長谷部健氏のお話を伺った後、ワークショップで「多様性輝く国際文化都市・渋谷」のカタチを皆で考えました。

\*本講座は、(一般社団法人)グローバル教育推進プロジェクト(GiFT)との協働プロジェクトとして開発、開催いたしました。

## 【第1部】 ゲスト講演／ 『2020年に向けて、渋谷がより輝くために』

渋谷を舞台にさまざまな活動を展開している長谷部健さんに、現在進んでいる取り組みについて紹介していただきました。また、「多様性輝く渋谷」を実現するために私たち一人ひとりに何かできるのか、ご自身の経験を踏まえたアドバイスをいただきました。



ゲスト：長谷部 健氏  
渋谷区ソーシャルプロデューサー、渋谷区区議会議員

### ■東京が確立すべきブランドとは

さまざまな調査や来日した留学生などの声から、東京は「世界の中でもクリエイティブな都市」「魅力的な文化を持っている」といったイメージを国際的に獲得していることが浮かび上がっています。そんな中、オリンピック・パラリンピックが2020年に東京で開催されることが決定しました。注目度が上がり海外から多くの人を訪れる2020年に向かって、東京はどのようなブランドを確立していけばいいのでしょうか。

私は、ただ「お金を稼げる」街ではなく、「楽しめる、深める」街、独自の豊かな文化を感じられる国際文化都市として東京のブランドを確立するべきではないかと思えます。スローガンは「Convivial Creative City Tokyo クリエイティブで楽しい活気のある都市へ」です。

### ■渋谷は、東京のクリエイティビリティを象徴するエリアに

東京の中でも、渋谷は特に注目を集めている地域です。キャリアーばみゅばみゅ(アーティスト)に象徴されるようにオリジナルの文化が生まれ、世界に発信されるようになってきました。それでは、これから渋谷は何を目指したらいいか。私が考えるのは、東京のクリエイティビリティのシンボルとなるエリアとなることです。

そのためのカギとなるのが「多様性」です。さまざまな背景を持つ人が混じり合うことで面白いアイデアが生まれ、先進的なカルチャーが開花します。

では、具体的にどんな人と混じり合い、交流すればよいのでしょうか。例えば障がい者の方々です。また、LGBT(レズビアン・ゲイ・バイセクシャル・トランスジェンダー)の中にもカルチャーに対して高い感度を持つ人が多くいます。こうした方々は人口の5%程度を占めるとされていますが、皆さんが実際に交流する機会はあまりないのではないかと思います。その背景には、障がい者の方にとって街への外出はとてもハードルが高かったり、LGBTへの理解が進んでいないためにカミングアウトされないことなどがあります。

### ■「多様性輝く国際文化都市・渋谷」に向けて私たちが できること

渋谷区議である私は、コミュニケーションチャーム(ハンディがある人をサポートする意志があることを表明するアイテム)の普及や、パートナー証明書(同性愛者を対象に、一定の手続きのもと、区内において法律婚と同様の権利を認定する証明書)制度確立に向けた条例整備など、渋谷が世界最先端のカルチャー発信地となるための仕掛けづくりを進めています。

「多様性輝く国際文化都市・渋谷」を2020年までに実現するために、皆さんにもできることがあります。それは渋谷に対するプライド(シティー・プライド)を持ち、自らの意識を変えてさまざまな人と交流するダイバーシティ(多様性)化を自分の内側から進めることです。皆が2020年までの間にそれに取り組めば、渋谷も皆さん自身もより輝かしく魅力的に成長していくのではないのでしょうか。

## 【第2部】ワークショップ/ワールドカフェ 『多様性輝く国際文化都市・渋谷に向けて』

長谷部さんのお話を踏まえ、キャンパスレストランを会場にワークショップを開催。お菓子とドリンクをおともに「多様性輝くSHIBUYA」について小グループで話し合い、実現に向けたアイデアをポストイットに書き込みました。



▲参加者は自由に着席。初対面の人も多いため、自己紹介をしてからワールドカフェをスタート。



▲ゲスト講演の感想や、「2020年の渋谷」についてのアイデアを、テーブルにセットされた模造紙に自由に書き込みます。浮かんだ案を書き出したポストイットもたくさん貼られ、模造紙はアイデアでいっぱいになりました。



▲20分ごとに席替え。各テーブル1名ずつ代表者が残り、それ以外の参加者は別のテーブルへ、思い思いに移動します。



▲第1部で長谷部さんに進呈されたコミュニケーションチャームをみんなに見せる学生参加者。



▲今日感じ考えたことを振り返って、「多様性についての視点や意識が変わった」という声も。



ワークショップ進行：  
三代祐子氏

一般社団法人  
グローバル教育推プロジェクト (GiFT)  
ダイバーシティ・ファシリテーター

### 《Twitterで会場の様子をリアルタイム中継!》

本講座の新たな試みとして、Twitterのハッシュタグ [#shibuguro] で講演者の話や講座の流れをリアルタイムに情報提供していきます。参加者も自由につぶやけます。



### 【今日の体験から生まれた参加者のアイデア (一部抜粋)】

- 路上にイスやベンチ、テーブルを置いて、多くの人とつながれる「フリートーク」の場をつくる!
- 他人任せにしないで、困っている人に話しかけて、助けていけるように。
- 若者の街ではなく、「みんな (全世代) の街」渋谷に!
- 日本人・外国人関係なく、触れ合いやすい・住みやすい街づくりを。
- 渋谷駅前のスクランブル交差点をレインボーカラー (性の多様性を表す色) に塗る!
- さまざまな人がいることを自然と感じられる街に!
- コミュニティを広げてあたたかい街づくりをしながら、日本の良さも残して国際化を。

### 【公開講座アンケートより】

渋谷への見方が変わり、より良い未来を描くきっかけになったことが浮かび上がりました。

#### Q. 「渋谷×グローバル×多様性」に対するイメージは、受講後どう変化しましたか?

##### ● ~19歳・学生

【講座前】 いろんな人がいる街・ごちゃごちゃガヤガヤ騒がしくて汚い街

【講座後】 多種多様な人がいて、たくさんの文化がある街・海外からの評価も高く、人が多いことが強みの街

##### ● ~19歳・学生

【講座前】 都会でいろんな人がいて楽しい反面、地方とは価値観などがまったく異なるイメージがあり怖い印象

【講座後】 世界からの評価も高く、自分たちが思っているより良い所なのだと思った。より良くするために自分ができることはなんだろうと考えるようになった

##### ● ~19歳・学生

【講座前】 新しいものがどんどん増えている所

【講座後】 いろんな視点から見れば見るほど面白い場所